

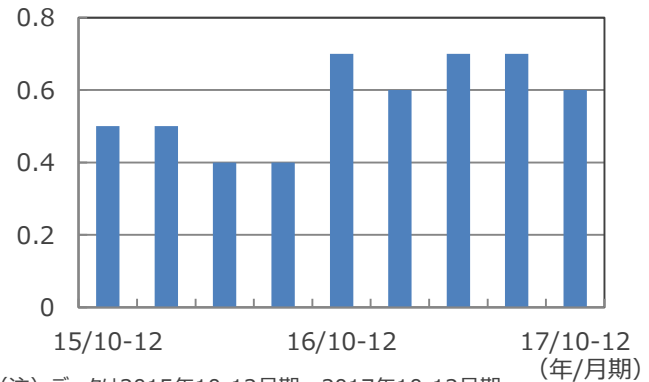
今日のトピック ユーロ圏経済は内需・外需ともに堅調

金融政策はゆっくりと正常化が進む見込み

ポイント1 内需・外需とも堅調 小売や生産は上振れ

- 2017年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率（改定値）は前期比 + 0.6%、前年同期比 + 2.7%となりました。ユーロ圏経済は、企業の固定投資を中心に内需が堅調で、かつ、アジアや域内向けを始め輸出が増加傾向にあります。
- ユーロ圏の景況感を見ると、2月のマークイット製造業購買担当者景気指数（PMI）は58.5、同サービス業PMIは56.7と、ともに市場予想を下回りました。ただし、中立水準の50を大きく上回っており、景気は堅調です。

【ユーロ圏の実質GDP成長率】
(前期比、%)

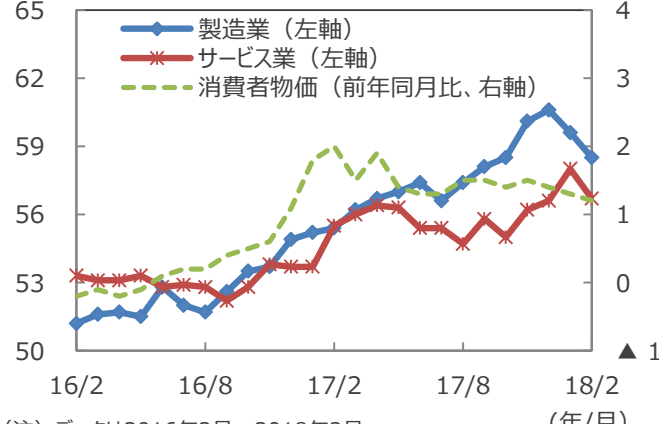


(注) データは2015年10-12月期～2017年10-12月期。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 インフレは依然落ち着いている 金融政策は徐々に正常化へ

- ユーロ圏の2月の消費者物価指数は前年同月比 + 1.2%となりました。欧州中央銀行（ECB）が目標とする2%近傍を下回っているものの、需給ギャップの縮小や原油価格の上昇などにより、今後は上昇率が緩やかに高まると考えられます。
- 景気が堅調なことから、市場では年内に利上げを予想する向きも見られたものの、2月22日に公表された、1月のECB理事会の議事要旨では、金融政策の正常化に慎重な姿勢が改めて示唆されました。

【ユーロ圏のPMIと物価】 (ポイント) (%)



(注) データは2016年2月～2018年2月。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 年央にかけてフォワードガイダンスの変更が見込まれる

- ユーロ圏経済は、財政政策や金融政策が景気拡大をサポートし、今後も内需は堅調に推移すると見られます。景気が堅調なことから、金融政策は今後徐々に正常化へ向かうと見られ、年央にかけて、将来の金融政策に対する考え方を示すフォワードガイダンスの変更が行われると考えられます。またその後は、物価や賃金の上昇ペースが緩やかながらも徐々に高まると見られ、2019年に利上げが実施されると見込まれます。

ここもチェック! 2018年2月23日 『FOMC議事要旨』、緩やかな利上げを継続へ
2018年1月31日 好調さが続くユーロ圏経済 (2018年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。